

認定心理士認定委員会より

皆様、私が常任理事に選出され資格認定担当を仰せつかり2年が過ぎました。この間多くの皆様にご協力、ご助力、ご尽力をいただきました。心より感謝申し上げます。さて、そのような時期でもあることから、今回は、私の任期中にできたこと、できなかったことについてお話ししておきたいと思えます。

1. 認定委員会について

認定委員会は、年に6、7回開催されます。非常に実務的な委員会で、各回、お昼に始まり、夕方まで数人の先生方で10ぐらいのグループを作って、審査をしていただきました。

最初に就任する段階で、前委員長から、申し込み数の減少についての懸念を伺っていました。そこで、私の課題の一つが「資格取得者数の維持」でした。結果としては、私が就任してから特に減少傾向はみられず、むしろ増加に傾きました。具体的には、ここ3年間の申請者数の推移をみますと、3,482件→3,593件→3,946件となっています。

ただし、一昨年度の申請者数の増加には、旧資格での駆け込み申請が含まれますので、単純ではあ

りませんが、就任当時に心配していた希望者の減少はどうもなさそうです。いやむしろ、多様な学科名が求められる現在の大学のシステムの中で、心理学をきちんと学んだことを保証することが、ますます求められているのだと感じました。実際、大学で心理学関係の授業を教えられている先生方からの優遇措置への申し込みも例年になく伸びています。

2. 研修会の充実

第2の課題は研修会の充実でした。初年度は、前年度の計画に従って、全部で6回の研修会を実施いたしました。しかし、この研修会を、私の代において「公開シンポジウム」という企画に統合させていただきました。前にも書きましたが研修会の最初の講師は私でした。その意味では非常に思い出深い企画ではあります。しかし、学会の教育委員会に研修会の担当メンバーも加わり、全体として充実した企画が出されています。今後の展開を楽しみにしてほしいと思えます。

3. 標準教科書の作成

第3の課題が標準教科書の作成でした。これは前委員長の代から既に着手されている課題で、私の代において完成させたいと思っていました。しかし、内容の充実やレベルの統一などの編集面での

課題も多く、結局完成に至っていません。標準教科書の作成は、思った以上に難しい問題が含まれています。常に改訂や改編を行えるような体制で、日本の心理学の基礎知識を提供するようなものを作ってもらえたらと思っています。

4. できなかった課題

第4の課題が審査支援データベースの構築でした。これも内部で小委員会を設置し検討を行いました。残念ながら予算執行との関係で、任期内には完成していませんが、今の認定委員会の紙ベースでの作業を必ずや解決してくれるものと期待しています。

さらにホームページも全く手付かずになってしまいました。現在、多くの学会で会員と学会の執行部とを結ぶ重要な役割を担っています。今後の課題として次期の委員会に引き継ぎたいと思えます。

5. 終わりにあたって

さて、私が当初に掲げた以上の課題以外に発生した課題にも取り組みました。これはまだ常務理事会などで揉んでもらう必要があり、ここで詳細を明らかにできませんが、新年度以降の認定委員会にぜひご期待頂きたいと思えます。

(日本心理学会認定担当常務理事・日本大学教授 山田寛)

編集後記

日常生活にビジネスにと(将来は入試でも?)批判的思考がますます求められる時代となりました。編集委員を拝命して以来、批判的思考の特集を企画したいと心に秘めておりましたが、初めての特集担当で実現することができました。ご多忙の中、ご執筆いただきました4人の先生方に厚く御礼申し上げます。本特集を一人でも多くの方にご一読いただき、批判的思考の大切さと面白さを(あらためて)感じていただけますと幸いです。(林創)

編集委員 (五十音順)

編集委員長	岡 隆	日本大学
副委員長	宮本 聡介	明治学院大学
委員	大神 優子	和洋女子大学
	小田 浩一	東京女子大学
	近藤 清美	北海道医療大学
	久保南海子	愛知淑徳大学
	三宮真智子	大阪大学
	杉浦 義典	広島大学
	杉若 弘子	同志社大学
	時津 裕子	徳山大学
	林 創	神戸大学
	森岡 正芳	神戸大学
担当常務理事	阿部 純一	北海道大学

心理学ワールド [61号] 2013年4月15日発行

年4回発行(1月、4月、7月、10月)

発行人—佐藤 隆夫

編集・発行—公益社団法人 日本心理学会 〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 田村ビル TEL 03-3814-3953

表紙デザイン—虎尾 隆 印刷・製本—銀河

制作—(株)新曜社